

JF Hessen  
SHIZUOKA JAPAN

# 静岡発の夢 世界へ響け

世界基準の楽器を作りたい。そんな夢を実現しようと、新たなピアノ作りに7年前から挑んできた男性が袋井市大野の町工場にいる。ピアノ技研工業の西尾治朗さん(50)。「SHIZUOKA(静岡)」の名を冠したこだわりのピアノを完成させ、新たなメーカーとして2018年から本格販売に乗り出す。(久下悠一郎)

## 袋井の新メーカーがピアノ



①ピアノに記された「JF Hessen」と「SHIZUOKA JAPAN」の文字 ②7年がかりでアップライトピアノを製作した西尾治朗さん。いずれも袋井市のピアノ技研工業で

### 「弾き手第一で」



一つずつ手作業で鍵盤の部品を加工する

金づちを打つ乾いた音が、広々とした空間に響き渡る。沿岸部の縫製工場跡を改装した工房。「従業員は自分だけ。正月もほほ休みなし」と西尾さん。出荷を控えたピアノの鍵盤蓋を上げると、「SHIZUOKA JAPAN」の文字がきりめく。  
東京都出身の西尾さんは高校卒業後、ピアノ好きだった母の影響から調律師の道に進み、浜松市内の会社で組み立てや修理に携わりながらピアノの構造を学んだ。九年ほど楽器業界を離れた時期もあったが、実家に残るピアノを調律したことを機に「技を生かしたい」と再び現場へ。二〇〇四年にピアノ技研工業の前身となる会社を立ち上げ、調律や修理を手掛けてきた。  
ピアノそのものを作ることに目覚めたのは、仕事で大手メーカーのピアノを解体したのがきっかけ。「ねじ穴の位置まで考え抜かれ、ただただ驚いた。自分も同じレベルを目指すようにした」。一年から開発に着手。心臓部である鋳物のフレームは国内での調達に難しかったが、中国メーカー「アートフィールド・ピアノ」から供給を受けることでめどが付いた。

## 7年かけ工夫重ね 本格販売へ

完成したピアノは高さ一・二尺、幅一・五尺ほどのアップライトピアノ。目指したのは「弾き手を第一に考えた製品」。楽譜を並べやすいように譜面台は幅約一尺と大型に。弾き心地を考え、足元のペダルを中央から少しだけ右側にずらす工夫もした。  
弦を弾くアクション機構は完成品を使わず、国内外から部品を調達して組み合わせ、軽快なタッチを追求した。ロゴには、アートフィールド社のブランド名「JF Hessen(ジェイエフ・ヘッセン)」が入る。価格は百二十八万八千円(税抜き)。脚柱のデザインや表面の質感が異なる三種類を用意する。  
戦後の復興とともに、ピアノメーカーが乱立した静岡県西部。西尾さんがこの業界に飛び込んだ昭和の終わりは、まだ多数の社があった。今はヤマハ、河合楽器製作所を含めて一桁台になったが、「新しくピアノ作りができる日本人がいることを示せたら」と西尾さん。当面は月三台の生産を目標に首都圏を中心に売り込む計画で、「いずれは世界に売り出したい」と思い描く。